

中学生連載企画  
私たちのふるさと松山学 No.6

垣生中学校

日本三大緋の一つ  
伊予緋の創始者 鍵谷カナ

伊予緋を考案した鍵谷カナ。その遺徳をしのぶため、毎年5月28日の鍵谷カナの命日に鍵谷祭記念行事が行われます。その行事で鍵谷カナについて発表するために、私たち生徒会のメンバーが調べました。



鍵谷カナ  
(内田 実結さん作)

①伊予緋の創始者  
鍵谷カナ



内田 実結さん  
(3年)

農家の主婦であったカナは、押し竹を縛った跡のまだら模様を元に伊予緋を考案しました。わら

ぶき屋根のふき替えの時に、押し竹の縄にくくられた部分のわらは白く、日に当たっていたわらは褐色に変わっており、きれいな模様ができていたのを見て、この模様を布にできないかと考えたそうです。

鍵谷カナの探求心とひらめき力がすごいなと思います。

②鍵谷カナ頌功堂とは



中矢 遥都さん  
(2年)

鍵谷カナの功績をたたえ、1929(昭和4)年に伊予織物同業組合が建立したものです。萬翠荘などの設計で知られている木子七郎の設計で、鉄筋コンクリート造りの8本の円柱と八角形の瓦屋根からなる八角堂です。中心部には八角柱の頌功碑



鍵谷カナ頌功堂

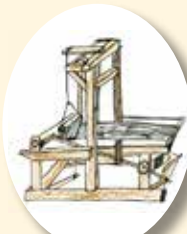
があり、国の登録有形文化財にもなっています。このことから、鍵谷カナが垣生の町に大きな経済効果をもたらしたのだということがわかります。女性の地位向上にも役立っていると感じました。

③伊予緋の作り方



中矢 陸斗さん  
(3年)

当時、伊予緋は織る前に乾燥させた藍の葉を使い、白い糸を染めてから織りました。染色には、天然藍を利しました。藍はデリケートで、温度を20度以上に保つ必要があります。江戸時代後期までは、地機という方法で織られており、多くの手間と時間を費やしました。4x織るのにおよそ6時間もかかったそうです。



(内田 実結さん作)

といわれています。明治時代には、機械の改良が進み、生産性が向上。複雑な美しい織物が可能となり、生産量が拡大しました。全国的に伊予緋の人氣が高まり、明治から大正にかけて、日本の緋生産のおよそ半分を占め、生産量は日本一を記録したといわれています。

④日本三大緋の一つ  
なった伊予緋



宮内 悠伍さん  
(3年)

福岡県の久留米緋、広島県福山市の備後緋と並び、伊予緋が日本三大緋の一つ

⑤伊予緋の今と昔



中嶋 小乃恵さん  
(2年)

1926(大正15)年頃は垣生小学校のすべての生徒が緋の着物を着て、洋服を

着ているのは先生のみでした。2004(平成16)年にフランスのパリで開催されたファッションショー「パリコレ」で、デザイナーの森英恵さんがデザインした洋服の生地に伊予緋を使用しました。

現在では、鍵谷カナにちなんで、伊予緋の着物や洋服を

鍵谷祭記念行事を終えて

鍵谷カナのことを十分知っているつもりでしたが、まだまだ知らないこともありました。自分たちが住んでいる地域の良いところをより深く知って、それをほかの皆さんに伝える良い機会となりました。垣生地区以外の皆さんにも機会があればお話しして、鍵谷カナや伊予緋について知ってもらいたいと思います。



鍵谷祭記念行事の様子



(内田 実結さん作)

なんだ伊予緋の小物ブランドが存在しています。世界に進出した伊予緋を、現代の人たちにもっと使ってもらいたいです。

今をがんばることを大切にしたい

鍵谷カナが亡くなってから功績が評価されたように、努力していることがすぐに成果として表れないかもしれないけれど、今という瞬間を大切にしたいです。

伊予緋模様のはっぴを手にした生徒会の皆さん



先人と文化の読み物教材

「語り継ぎたいふるさと松山」百話 I・II・III



第II巻に鍵谷カナを収録

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることが出来ます。

西暦・年号	事柄
七八二年(天明二年)	愛媛県垣生村今出に産まれる。
七九二年(寛政四年)	機織りを始める。(十才)
八〇二年(享和二年)	松山で着物を織るしま織り機が発明され、しま模様の織物が多く作られる。
一八〇三年(享和三年)	青菜のしるでそめた糸を使って織ること、模様を作り始める。
一八三〇年(天保元年)	しま織り機を使って、かすり模様の作り始める。
一八四四年(弘化元年)	「あい」とそめた始める。(後の伊予かすりとなる。)
一八六四年(元治元年)	五月二十八日、七くなる。(八十二才)

(宮内 悠伍さん作)